

各位

会社名 フューチャー株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 金丸 恭文
(コード番号 4722 東証プライム)
問合せ先 ファイナンシャル&アカウンティンググループ
執行役員 松下 恭和
(TEL (03) 5740 - 5724)

2024年12月期第2四半期(中間期)連結業績(累計)のお知らせ

1. 2024年12月期第2四半期(中間期)連結業績(累計)について

当社グループの当中間期連結会計年度(2024年1月1日~2024年6月30日)の連結業績は、

売上高	32,954百万円	(前年同期比 16.3%増)
営業利益	6,902百万円	(前年同期比 9.5%増)
親会社株主に帰属する中間純利益	4,864百万円	(前年同期比 12.6%増)

となりました。

当中間連結会計期間における経済環境をみると、不安定な世界情勢、国内におけるインフレや円安傾向の継続及び金利先高観の広がりなどの環境の中でも、企業のDX(デジタルトランスフォーメーション)や業務改革、生成AI等を利用した新たなデジタルサービスの創出などITを通じた経営改革への取組みは引き続き旺盛です。また、働き方改革関連法の施行や人手不足への対応の取組みとして生産性・効率性の向上及び企業全体のサプライチェーンの見直し、ESG・SDGsの取組みに関連したITの活用も加速しており、あらゆる業種や領域において活発なIT投資が続いています。個人においては、ECサイト経由での購買、動画やオンラインを活用した娯楽やスポーツ観戦、ネットサービス上での教育、自己啓発などでのITの利用が定着し、これらに関連した様々なサービスが生まれています。

このような状況下、これからの銀行サービスの基盤となる「次世代バンキングシステム」の1行目の銀行における導入が完了するなど、当社の中長期的な成長に資する大型プロジェクトが順調に進行した結果、当社グループの当中間連結会計期間においては、売上高及び営業利益、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比で増収増益となりました。

各セグメントの業績(売上高・営業利益)については以下のとおりです。

(1) ITコンサルティング&サービス事業

フューチャーアーキテクト株式会社(フューチャー株式会社のテクノロジー部門を含む)は、全国30行の地域金融機関に導入している融資支援システム「FutureBANK」に、生成AIを組み込むことで融資支援業務の効率化を図る実証実験を開始したほか、物流センターの入出庫業務における検品作業を当社開発のAI-OCR「Future EdgeAI」を利用することで省人化

と業務効率化を実現するなど、当社のAI技術を活用した業界の課題解決に資するソリューションを提供しました。そのほか、顧客のDXを推進し、業務効率化を実現するプロジェクトをはじめ、多種多様な顧客の案件を獲得、推進しました。当社の中長期的な成長に資する、知財を活用した案件については、「次世代バンキングシステム」導入プロジェクトが、1行目は2024年7月16日に安定稼働を開始し、2行目は開発・テストフェーズが順調に推移しております。加えて、メディア向けCMS (Contents Management System) 「GlyphFeeds」の導入プロジェクト、アパレル向け基幹プラットフォームシステム「FutureApparel」の導入プロジェクトなどが順調に進捗しております。これらの結果、前年同期比で増収増益となりました。

フューチャーインスペース株式会社は、定常的な保守運用サービスに加え、既存顧客のシステム基盤更改及びクラウド移行案件の開発が好調に推移し、前年同期比で増収増益となりました。

FutureOne株式会社は、強みであるオリジナルのパッケージソフトウェア「InfiniOne」の販売において、鉄鋼業など業界特化型の営業展開による新規受注が増加したものの、大型の開発案件がピークアウトした影響により、前年同期比で減収減益となりました。

株式会社ワイ・ディ・シーは、製造業を中心とした顧客に対して、DXコンサルティング等を通じたデータ活用による工場マネジメントのデジタル化を実現する「Smart Factory」構築の牽引に加え、DX案件実行を通じた顧客への価値訴求が売上増に寄与したものの、人的資産も含めた積極的な投資を反映した採用コスト増やソフトウェアの償却負担増などが影響し、前年同期比で増収減益となりました。

株式会社ディアイティは、サイバー防御演習やセキュリティコンサルティング等のセキュリティサービスの売上が増加している一方で、製品販売の受注減少や、広告宣伝及び採用への積極的な投資によるコスト増により、前年同期比で減収減益となりました。

株式会社リヴァンプは、プライベートエクイティファンドや経営者の実務を支援する経営マーケティング事業において、既存案件に加えてヘルスケア分野の案件を新規受注するなど、業績は堅調に推移しています。基幹システム刷新や全社構造改革のコンサルティングを行うDX事業は、概ね計画通り進捗しています。なお、当社は、株式会社リヴァンプの損益を当第2四半期連結会計期間から取り込んでおります。

この結果、本セグメントの売上高は28,436百万円（前年同期比16.4%増）、営業利益は6,719百万円（同2.0%増）と増収増益となりました。

(2) ビジネスイノベーション事業

株式会社YOCABITOは、アウトドアやアパレル市場における厳しい競争が続く中で前年同期比で減収となったものの、仕入から商品掲載、EC販売までを一気通貫で管理する体制に変更し、単品ごとの戦略売価設定や販売促進施策の推進により粗利率が改善したことから、営業損失額は減少しました。

東京カレンダー株式会社は、メディア事業における広告売上及び「東カレデート」等のネットサービス収入が堅調に推移したことに加え、コスト改善施策を進めたことにより、前年同期比で増収増益となりました。

ライブリッツ株式会社は、スポーツチーム向けの会員管理・ECパッケージ「FastBiz」の複数チームへの導入案件が順調に開発フェーズへ推移したことに加え、e sports事業のビジネス案件を受注したことから、前年同期比で増収増益となりました。

株式会社キュリオシティは、ジュエリー、腕時計など海外ラグジュアリーブランドの複数の大型ストアデザインの順調な進捗などを背景に、売上・収益ともに堅調に推移しています。同社は前第2四半期連結会計期間から新規に連結しており、当連結会計年度より業績が通期寄与します。

この結果、本セグメントの売上高は4,535百万円（前年同期比14.2%増）、営業利益は245百万円（前年同期は営業損失310百万円）となり、前年同期比で増収増益となりました。

なお、報告セグメントにおけるフューチャー株式会社の持株会社機能の収益並びに費用及びセグメント間の取引消去を計上する「調整額」の営業損失が34百万円となり、前年同期比で100百万円の減益（前年同期は営業利益66百万円）となりました。これは、主に、フューチャー株式会社が株式会社リヴァンプの株式取得関連費用を計上したことによるものです。

（注）上記のセグメントの業績数値は、セグメント間の内部売上高又は振替高を調整前の金額で記載しております。

2. 今後について

(1) グループ戦略について

中長期的な事業環境としては、DXやリモートワークをはじめとする働き方改革等の変化に加え、ESG・SDGsなどの経済、社会的な課題への対応の要請もあり、企業の積極的なIT投資は続くものと予想されます。

当社グループとしましては、ITを通じて経営改革を進める企業のニーズを的確に捉え、グループシナジーを発揮しながら多面的、積極的に支援することで、多種多様な顧客からの一層高い支持が得られるように努めてまいります。

また、ESG・SDGs関連の取組みにおいても自社の取組みを進めるとともに、環境対応や脱炭素化に向けた顧客の取組みを支援してまいります。

加えて、グループとしての知的財産の有効活用や、M&Aも含めた機動的な戦略投資を行うことで、ビジネスモデルの進化を図り、次期以降の更なる成長へとつなげるとともに、継続的な人材採用、教育、研究開発への投資といった将来の成長に資する事業基盤の整備を進めてまいります。

併せて、グループ内のコミュニケーション強化、品質管理精度の更なる向上等、グループガバナンスの強化を実施してまいります。

各セグメントの特記事項は次のとおりです。

(2) ITコンサルティング&サービス事業

フューチャーアーキテクト株式会社においては、経営改革を図る顧客からのグランドデザイン及びDXの推進を意識した、多様な業種からの基幹システム刷新等の案件を受注しました。足元では、物流における2024年問題の解消に資するソリューションとして、AIによる配送ルート最適化等を物流業、流通小売業向けに提供し、顧客とともに業界の課題解決に取り組んでいます。

業界の永年の課題解決に資するITソリューションの提供、企業戦略全体の高度化支援といった、顧客価値の最大化に資する取組みを続けるとともに、「Glyph Feeds」「Future Apparel」「Future LOGI」等の当社の知財を活用した顧客の課題解決にも積極的に取り組むべく、新たな顧客への提案活動を進めています。「次世代バンキングシステム」については、1行目を安定稼働させた実績を訴求しながら、新規行の獲得に向けて取り組んでまいります。

更に、人材の獲得や教育への投資、品質管理、プロジェクトマネジメントの強化に取り組むことで、これからの時代をリードする体制作りを行ってまいります。

フューチャーインスペース株式会社は、既存顧客のシステム基盤更改及びクラウド移行案件など、複数の大型プロジェクトの開発を安定的に進めるために、開発品質の更なる向上と、人材の採用及び育成を行い、着実に収益を拡大します。

Future One株式会社は、引き続き、強みであるオリジナルのパッケージソフトウェア「Infinity One」の業界特化型の営業展開により受注を拡大するとともに、製品強化にも努め、製販一体でのトータルソリューションを顧客に提供することで収益の更なる拡大を目指します。

株式会社ワイ・ディ・シーは、製造業向けDXコンサルティングと「Smart Factory」構築に加え、基幹システム刷新及び業務改革の支援、データインテグレーションにおける大型案件の獲得によりビジネスの拡大を狙います。また、グループシナジーの発揮による物流領域でのビジネス拡大や、ESG領域ビジネスの新規事業の貢献、基幹製品である「YDC SONAR」のパートナー拡大により、収益の更なる拡大を目指します。

株式会社ディアイティは、危機管理対応とセキュリティ診断サービスに注力し、子会社のサイバー・ソリューション株式会社と共同でセキュリティライフサイクルを提供しています。また、フューチャーグループ各社の既存顧客へセキュリティの専門サービスを提供することでシナジーを追求し、収益拡大を目指してまいります。

株式会社リヴァンプは、経営マーケティング事業における既存案件の着実な遂行に加え、今後はプライベートエクイティファンドと連携しつつ、金融収益の取り込みを図ります。また、DX事業においては、既存顧客のグローバル展開支援を中心とした案件の拡大を目指すとともに、投資先や海外先進技術企業との協業により新規顧客を開拓していきます。更に、両事業においてフューチャーグループのリソースとノウハウを最大限に活用し、共同案件等におけるシナジーの早期創出を図ります。

(3) ビジネスイノベーション事業

株式会社YOCABITOは、引き続きデジタルプラットフォームの活用によるアナリティクス精度の向上とデータドリブンによる迅速な意思決定、及び継続的なコスト削減により収益改善に努めてまいります。

東京カレンダー株式会社は、ユーザーデータの利活用及びデジタルプロモーションの強化により、集客力とユーザーエンゲージメントをより一層高めてまいります。月刊誌をはじめ各メディアに掲載するコンテンツの精度を高めブランド力の向上を図るとともに、「東カレデート」「グルカレ」などのサービスへの集客力を強化し、各事業の更なる成長と収益拡大を目指してまいります。

ライブリッツ株式会社は、スポーツ分野で培った日本一のチームを支えるデータ分析技術や、コンテンツを活用したファンサービスを通じてビジネスの拡大を実現するシステムを、e s p o r t sをはじめとしたエンターテインメント分野に応用し、更なる成長と収益拡大を目指してまいります。

株式会社キュリオシティは、プロジェクト規模の大きい高級ホテルやハイエンドレジデンスのインテリアデザインの事業に注力するほか、世界的なブランドのストアデザインを顧客の世界展開に合わせて継続的に受注してまいります。併せて、キュリオシティのデザイン哲学を理解・実践し、グローバルに対応できるデザイナーの採用を進めてまいります。

以上

●本件に関する問い合わせ先：

フューチャー株式会社 ファイナンシャル&アカウンティンググループ 松下恭和

IR 直通 Tel：03-5740-5724 電子メール：ir@future.co.jp